

子ども福祉委員新聞

社会福祉法人
守山市社会福祉協議会
守山市下之郷三丁目2番5号
TEL：077-583-2923

令和5年8月

子ども福祉委員、始動！

守山市社会福祉協議会で新たに始めた、子ども福祉委員事業。子どもたちが福祉の課題を知り、福祉活動の体験を通して、地域づくりを考えるきっかけとすることを目的に、さまざまな活動を行っています。

今年度は、福祉活動推進校に指定した市内の小中学校5校の中から、市立守山中学校を対象に呼びかけたところ、生徒2名が応募。第1号となる本紙では、これまでの活動を振り返ります。

01

第1回（令和5年8月5日） 委嘱状交付・活動ガイダンス

市社協会長から、初代子ども福祉委員となる岡橋優衣奈（おかはしゆいな）さん、山本恵那（やまもとえな）さんに委嘱状をお渡ししました。



続いて、ボランティア活動について、民生委員・児童委員について、高齢者との関わり方についての講義を受けました。

私の知らないところで、ボランティアや民生委員・児童委員が生活を支えてくれているんだ！という気付きや、高齢の方と関わる時は、ゆっくり、目線を合わせて話すことを意識したい！と次回の「高齢者との交流会」に繋がる学びがありました。

第2回（令和5年8月26日）

高齢者との交流会 02

市内の高齢者福祉施設、「グループホームゆい」で暮らす高齢者との交流会を開催しました。職員の方と一緒に具たくさん豚汁をつくり、また参加者みんなで長い巻き寿司を完成させました。



作った料理をみんなで食べた後は、お楽しみの出し物タイム！委員の2人がマジックや歌を披露しました。

最後に、ゆいの里の施設を見学しました。委員は、想像していた病院のような施設とは違い、趣味のマシンが置いてあったり、夫婦で住んでいたりと、「家」として暮らしている様子に驚いたそう。みなさんが集まってコミュニケーションを取れる場もあり、高齢者福祉施設に対するイメージが変わったようでした。

03

第3回 (令和5年10月28日、29日)

1日民生委員・児童委員体験

日々、民生委員・児童委員が行っている、地域の見守り訪問に同行しました。高齢者のご自宅に伺い、世間話などを通してお困りごとを聞き取る様子を間近で見ることができました。

わずかな顔色の変化も見逃さず声を掛ける民生委員の存在が、地域の大きな力になっていることが分かりました。



訪問を重ねることで、相手に少しずつ心を開いてもらい、気軽に相談してもらえる関係を作っていくことが大切だと気付きました。

また民生委員の訪問は、高齢者にとって、大切なコミュニケーションの場であり、楽しみの一つになっているのだと感じました。



今回委嘱された子ども福祉委員は、引き続きお住まいの地域の福祉活動に参加、協力される予定です。

守山市社会福祉協議会では、次年度以降もこの取り組みを推進していきます。



子ども福祉委員の声

これまでの活動から

今まで「福祉」という言葉に対して、高齢者に対する支援をイメージしてしていました。でも、子ども福祉委員としての活動を通して、子どもやその親、障がいのある方など、さまざまな立場の方に関わることだと分かりました。

1日民生委員・児童委員体験では、民生委員が地域の方の話を聴き、心に寄り添っていることを知り、地域になくはない存在なのだと改めて感じました。

(岡橋 優衣奈)



1回目の活動の時に、「福祉を色にたとえると？」と聞かれて「水色」と答えました。

でも、第2回活動でゆいの里の職員の方が、高齢者の方に思いやりを持って接する姿を見て、優しい気持ちがポカポカと暖かく感じ、福祉に対するイメージが変わりました。今同じ質問をされたら、ポカポカと暖かい色、「オレンジ」と答えます。

(山本 恵那)